第２回　防府市人権学習市民セミナー

日時：令和８年９月２９日（火）
　　午後１時３０分から午後３時まで
会場：防府市創業・交流センター　多目的ホール

【インフォームド・コンセントの推進】

演題：インフォームド・コンセントと医療・介護現場での意思決定支援について

講師：医療法人新生会 いしいケア・クリニック
院長　原田　唯成 先生



この内容の研修は初めてであり、とても興味・関心をもって聴くことができた。ひとつの家族の思いや願いを大切にし、ひとつのストーリーとして展開されていく手法がとてもわかりやすく理解を深めることができた。
（参加者アンケートより）

講師　原田　唯成　先生のお話より

１　自分で決めるって当たり前？

　わたしたちは日常生活の中で、たくさんの意思決定をしています。その小さな選択の集まりが「その人らしさ」を形成しているといっていいでしょう。ところが、病気や介護の場面になると迷い、不安、時間の制約がある中で決めないといけない場面が生じてきます。そんな時、周りの人は様々なアドバイスをするがその人の「大切にしたいこと」は置き去りになっていないでしょうか。「本人のために決める」と「本人と一緒に決める」は似ているようで違います。本人と一緒に決めることは対話の中に本人もいるので、本人の決断をサポートする、後押しすることになり、納得できる結論に近づきます。

講師　原田　唯成　先生のお話より

２　人権から医療へ

　人権とは、人として尊重され、自分で考える、自分が伝える、自分が選び、生きていくことが守られていることと言えます。いのちを大切にすること、自分らしく考えて決めること、等しく参加し尊重し合うこと、この視点は医療や介護の現場でも変わりません。「医療者が決める」でも、「本人だけに任せる」でもなくひとりの人として尊重しながら、一緒に考えることが大切です。病気を診るだけでなく、「その人の人生」に関わるのが医療・介護なのです。そこで、十分に情報を提供したうえで、患者さんに方針を選択いただく「インフォームド・コンセント」が大切になってきます。

講師　原田　唯成　先生のお話より

３　インフォームド・コンセントについて

　インフォームド・コンセントの出発点は、患者さんが判断できるように、期待できる効果や体への負担、副作用や治療しなかった場合の見通しなど必要な情報をきちんと伝えることです。しかし、患者さんは説明を聞いても、たくさんの情報で頭の中がこんがらがってしまうことがあるため、十分な情報を一方的に説明して同意をもらうのではなく、しっかりご本人にご理解いただき、自分の意思で決めていけることが大切です。

講師　原田　唯成　先生のお話より

４　患者さんへの情報提供や患者さんとのコミュニケーション

　患者さんに「分かりましたか？」と聞いてしまうと、多くの方は、悪い知らせの場面や時間が限られた状況の時は、遠慮や不安からよくわからないまま「分かりました」と言ってしまう場合があります。なので、「どう理解されていますか？」、「どんな風に思われますか？」という、“はい・いいえ”でない答え、文章で答えてもらう問いかけ（オープンクエスチョン）をするようにしています。

講師　原田　唯成　先生のお話より

５　納得できる選択を

納得して選ぶための確認ポイントは以下の５つ

・病気の状態や今後の見通しを理解していること

・治療のケアの選択肢とそれぞれのメリット・デメリットを知っていること

・生活への影響（身体的影響・気持ちへの影響・家族の変化や経済など）を考えていること

・自分にとって大切にしたいこと（価値観や希望）を整理できていること

・迷いや不安があれば、何度でも相談、質問できること

こうしたことを確認してメモをとりながら整理していきます。

講師　原田　唯成　先生のお話より

６　インフォームド・コンセント（IC）から
共同意思決定（SDM：Shared Decision Making）へ

現在は、ICから一歩進んで、SDMとなっています。ICの「説明しました、ではよく考えて決めてください」ではなくて、「より一緒に考えていきましょう」という形です。窓口対応型から価値観や希望に沿って考える、伴走型にかわったイメージです。患者さんの大切にしていることを共通理解とした上で、治療の選択肢や生活への影響などを一緒に考えていきます。また、家族や大切な人とも一緒に考えます。話し合ったことをまとめ、現時点での方向性を確認していきます。病状や体調、周囲の環境によって、変わりゆく気持ちについては、書き記しておくことが大切です。そして、色々な選択肢を知っておくことも大切です。「～になったら〇〇しよう」とパターンをいくつかあげて考えておくと、医療従事者も家族も本人も不安少なく生活・支援ができます。

講師　原田　唯成　先生のお話より

7　ACP:Advance Care Planning(人生会議)について

　ACPとは本人を中心に、家族や医療・介護従事者とこれからの暮らしや医療、介護について考えを共有するプロセスです。自分らしく最後まで生きることの出発点になります。ACPは元気なうちから、病気の診断、治療の選択など様々な場面で繰り返し行っていくことが大切です。話し合ったことは必要に応じて書き残しておくと、いざという時に本人の希望が伝わりやすくなります。

市民セミナー参加者アンケートより

- あらためて、関わり合うこと、対話することの大切さについて考えさせられました。また、相手を思いやることと、その人のためにとなりすぎることとは大きく異なるということも再認識できました。互いを尊重し合いながら、対話を通して、つながり、関わり合えるようになりたいと思います。

- 周囲からのアドバイスとして発せられた言葉が、本人の自分らしく生きる権利を奪ってしまうかもしれないというお話は大変驚かされました。元気なうちに話をしておきたいというのは自分の親世代を思い浮かべるとリアルでした。どんな選択肢があるのか、たくさんの手を借りて考えられるようにしたいと、前向きに考えられそうです。

《感謝の言葉の部分は省略させて頂き、原文どおり掲載しています。》